
好きなんて言ってやらない

戸神七葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

好きななんて言っちゃらない

【コード】

N8984Q

【作者名】

戸神七葉

【あらすじ】

ある日、合コンに誘われた凜。合コン先で出会ったのは元カレで絶交中の遊馬だった。

第1話

遊馬「あっ」

凜「げっ」

二度と会う事はないと思っていた

絶交中の元彼などと……

こんな残酷な事などあるだろうか

ガヤガヤ……

合コンで元彼と会ってしまったなんて

由里香「それにしても凄いよね」

凜「なにが？」

由里香「なにが？つて、元恋人同士が合コンで会ったよ？凄い事じゃん」

元恋人同士が何処かで会うなんて良くある事

由里香「しかも絶交中の！！」

恋人達の別れ方など他に好きな人が出来ただの束縛が嫌だだの大抵がそれで別れる事が多いと思う

でも別れる直前に絶交する恋人なんて早々いないだろう

凜「もう終わった事だし」そう 遊馬との関係は終わった事……

キャハハッ

「遊馬君可愛い」

遊馬「いや、そんな事ないですよ」

終わったはずだった……

中3の冬

遊馬「凜、さっき何してた？」

凜「へ？」

遊馬「さつき何してた？」

凜「えつと、何してたって……友達とバスケ？」

ゴゴゴゴ ……

何この音？

遊馬「凜〜！！」

凜「ひつ〜！」

遊馬、怒ってるっ！！

凜「ゆ……遊馬??？」

遊馬「凜は……」

凜「??？」

遊馬「俺と同じ高校行きたくないのかよ」

えっ？ 同じ高校？

凜「そりゃあ遊馬と同じ高校行きたいよ」

遊馬「！じゃあ勉強……」

凜「ふっ でも行けるわけじゃないじゃんっ」

遊馬「え？」

凜「遊馬と私じゃあ格が違うよっ 私の脳みそなんて空みたいなも

んなんだから」

ゴゴゴゴ ……

ん？ この音……また!？

遊馬「お前となんて絶交だ!！」

凜「は!？」

何言ってるの!？

凜「意味分かんないんだけどっ」

遊馬「今後一切話しかけんなっ」

それって彼女じゃなくなるって事？

そんな……

凜「ゆ……」

遊馬「これで勉強に集中出来るよっ お前に勉強教えても全然集中

しないし迷惑だったんだよ」

え？ 遊馬そんな事思ってたの？

遊馬「やっぱりスポーツバカには勉強は無理だよなっ！」

凜 ピクッ

今、こいつ何て言った？ スポーツバカ？

凜「ハハッ」

遊馬「？」

こんな奴と付き合ってるなんてバカらしい

凜「私がスポーツバカ？ じゃあ、あんたスポーツが出来ない勉強バカじゃん！！」

ムカツク！！

凜「人の事言えんの??」

好きな人にこんな事を言う自分もムカツク……

凜「あんたなんてこっちから願ひ下げよっ」

遊馬「……そうかよ」

凜「あっ……」

こんな事言いたいわけじゃないのに……

遊馬「もう別れよ……」

凜「！！」

こんな別れ方なんて嫌だ

凜「い……」

遊馬「……」

凜「！！」

だけど自分が悪いんだ

凜「分かった……」

自分の愚かさを初めて知った

もう遊馬の笑顔を見れないんだ……

「凜っ凜っ ……」

凜「ん……」

由里香「凜！！」

凜「！！……えっ何！？」

由里香「何って……みんな先に行っちゃったよ？」

凜「行くなって……」

スツカラカーン…

凜「えっ！？」

由里香「凜が来て早々寝ちやうから……」

凜「私、寝ちやったの！？」

由里香「うん」

凜「私……夢見てたんだ」

由里香「夢？」

凜「うん。遊馬と別れる夢……」

由里香「凜……」

凜「何であんな夢」

終わったはずなのに…… 忘れたはずなのに……

凜「何で……」

由里香「凜っ今日、何しに来てる？」

凜「えっ……合コンでしょ？」

由里香「そうだよっ！！合コンに来たんだよっ あんな奴の事何て

考えないで今を楽しもうよ！！」

凜「由里香……」

ガバツ

由里香「りっ……凜！？」

凜「由里香ありがとうっ」

由里香「……うんっ」

由里香本当にありがとうね

由里香「凜」

凜「ん？」

由里香「じゃあ頑張ってね」

凜「え？」

（公園で花火中）

由里香「鬼だー！！」

一人で男子に話しかけるとか絶対無理だよ！！

由里香「もー」

凜「？」

由里香「花火振り回しちゃ危ないよっ」

「でも綺麗だよっ 由里香ちゃんもやってみたら？」

由里香「ダメだよお」

由里香もう馴染んでるじゃん！！

秋晴「由里香ちゃん、馴染むの早いねえー」

凜「！！」

えっ？ 誰？？

秋晴「ハハツ！その反応良いね」

秋晴「俺、遊馬と同じ高校で同じクラスの矢谷秋晴 よろしくな」

凜「あ、はい」

凜「あっ私は……」

秋晴「武藤凜」

えっ……

秋晴「でしょ？」

何で知って……

もしかして……

秋晴「凜ちゃん自己紹介の時に寝ちゃったもんな 由里香ちゃんに

教えてもらったんだ」

凜「あっ そうなんだ」

一瞬、遊馬に教えてもらったのかと思った……

秋晴「凜ちゃんは……」

凜「ん？」

秋晴「遊馬の元カノじゃなさそうだねっ」

凜「ぶっ!!」

秋晴「凜ちゃんどうしたの!?大丈夫??」

凜「あっ うん大丈夫」

何でこの人こんな話

秋晴「凜ちゃんと由里香ちゃんは遊馬と同じ中学校だったんだよね？」

凜「うん……うん」

秋晴「じゃあ遊馬の元カノの事知ってる？」

知ってる?って言われても 私なんですけど……

凜「うん……知ってるよ」

秋晴「マジで!？」

凜「あっ……うん」

嘘をついてしまった

秋晴「じゃあさっじゃあさっ遊馬の元カノって運動神経良いつて本当!？」

凜「……うん」

秋晴「じゃあ勉強全然出来ないって本当？」

凜「ハハッ……そふみただね」

遊馬「!!」

秋晴「……じゃあ絶交して別れたって本当？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8984q/>

好きなんて言ってやらない

2011年10月8日17時33分発行